

光触媒シートによる水分解の最近の進展

東京大学 大学院工学系研究科

堂免 一成 教授

微粒子光触媒を用いる水分解は、将来的に人工光合成型水素製造への大規模な展開が見込める反応系であるが、太陽エネルギー変換効率の向上が大きな課題である。最近、微粒子光触媒を導電性薄膜上に固定化した光触媒シートを形成することにより、可視光領域で30%以上の量子収率が得られることが分かってきた。いくつかの光触媒の組み合わせと今後の展開について紹介する。



日時：2016年1月15日（金）16:00-17:00

場所：野依記念物質科学研究館2階講演室

連絡先：田中 健太郎（内線2940）